



梨ブランデー問題

赤字の原因は

商品に魅力がないからか、経営者がいないからか

企業は、言うまでもなく、人、もの、金によって成り立っています。市は梨ブランデー事業から撤退すべきだと主張している方々は、梨ブランデー(株)が赤字を続けているのは、商品が悪いからで、いくら努力しても梨ブランデーは売れないと言っています。

しかし、純然たるブランデーの売上高が1,000万程度で、売上比率は15%程度だということはあまり知られていないようです。売れているのはブランデーケーキ(売上比率50%弱)やなし酎となっています。

ブランデーケーキはパサパサで余りおいしくないという意見も聞きますが、おいしくすることは、絶対にできないのでしょうか。

補助金などで税金をどんどん使うのは、私も望ましいとは思っていませんが、この会社を再建することは全くできないのでしょうか。

経営者を公募すべし

私は、この会社がダメなのは、商品ではなく“人”だと考えています。

平成10年6月の検討協議会提言書でもそのことは既に述べられますが、責任ある経営者がいないことが、すべての原因です。

6人の現役員は、すべて非常勤で無報酬です。従って、役員というのは名ばかりで、実際は役所の市民経済部長(昨年6月市長と交替して取締役就任)や商工振興課がやっています。

第三セクターや殿様商売がうまくいった例があるのでしょうか。

企業の存立は先ず“人”です。

従って私は、早く経営者を公募して“人を得る”ことが先決だと主張しています。

市の株式を売却し、民営化すべし

そして、ボランティアでというわけにはいきませんから、その財源として現在市が所有している株式(6930株、89.83%)を市民に適正価格(1万~2万)で売却したらどうかと言っています。この会社を清算すれば、株式は単に紙切れとなり、市の出資金3億4,650万は帰って来ず、そして数千万の清算費用すらかかる予定です。

市役所が親方日の丸で会社経営をやっているからダメなのです。民営化して民間の立派な経営者の元に、市民がふるさと産品の育成という気持ちで、会社を支援していけば、私は2~3年もすれば、この会社は見事に立ち直ると考えています。

現在検討委員会の方々も熱心に経営改善をご協議いただいておりますが、先ずは人を得ることができなければ、どんな立派な提案も絵に描いた餅です。従って、私は第一が経営者の公募であり、第二がその財源の確保であると考えています。

ふるさと産品として育成すべし

梨は夏だけで、他県にもあります。梨ブランデーは一年中あり、日本で唯一白井だけです。私はこの商品をなくしてはならないと考えます。

市民みんな育て、誇り得るふるさと産品にしたらどうでしょうか。

